



セーフティネット医療

※結核、重症心身障がい、筋ジストロフィーを含む神経・筋難病など他の医療機関では体制の整備、経験、または不採算とされることからアプローチが困難な分野の医療



医師・看護師・療養介助員・心理療法士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・児童指導員・保育士・ソーシャルワーカーで構成されるチーム。スタッフの笑顔が患者さんを元気に、患者さんの元気がスタッフの笑顔の源となっている

高い専門性とチームの力で患者さんを精神的安定に導く

～肥前精神医療センターの強度行動障害を呈する患者さんへの対応～

障害特性と環境のミスマッチが引き起こす強度行動障害

肥前精神医療センター（佐賀県吉野ヶ里町）は精神神経疾患医療全般を担う病院です。家庭や福祉施設では対応困難な、強度行動障害を呈する重度知的障害や発達障害の患者さんに対応

できる、全国でも数少ない専門病棟があります。強度行動障害とは、自傷行為や食べられないものを口にする（異食）、他人を叩いてしまうといった行動が高い頻度で起こるため、特別な支援が欠かせない状態を指します。こうした行動は自閉スペクトラム症などの障害特性と環境のミスマッチによるもので、患者さん本人も困った結果、生じていることが多いのです。身体的

に問題がないため、走る・飛び出すといった突発的な行動を伴うことがあり、こうした行動を呈する患者さんを受け入れているのが肥前精神医療センターの専門病棟です。

強度行動障害を伴う重度知的障害や発達障害の患者さんへの対応には、専門的な知識をもつスタッフと、患者さんが快適で安全に過ごせる専用の病棟が必要です。このため民間の医療施設で対応することが難しく、患者さんご家族にとっても、24時間自宅で世話をするのは大きな負担になることがあります。NHOでは、セーフティネット医療の一環として、そうした患者さんに対応できる専門の病棟を開設してきました。今では全国に9施設を数えますが、肥前精神医療センターの専門病棟は、その第一号です（1972年開設）。

日中活動（療育）・行動療法とチーム力で精神的安定に導く

専門病棟では患者さんに対し、日中活動（療育）・行動療法を中心とした医療や、看護・介護を多職種によるチームで提供しています。會田千重精神科医長（療育指導科長）によると、

強度行動障害のある患者さんは見通しが立たない環境ではパニックをおこしやすく、言語によるコミュニケーションが難しい方がほとんどといます。一方で、特定の作業や行動に強い関心をもつ傾向があるといい、作業や行動に集中している間は、落ち着いて過ごすことができるのです。このため、安心できる分かりやすい環境（部屋や物）で、同じ手順（構造化）といいますが興味のある日中活動（療育）・行動療法を行うことが治療の有効な手段なのです。

患者さんが関心を持つ活動はそれぞれ異なるので、ある患者さんには手先を動かす刺繍を、別の患者さんには体を激しく動かすランポリンといったように、患者さんにとって精神的に安定する活動を見極めることが大切です。多職種のスタッフがそれぞれの専門性を生かしながら患者さん一人ひとり进行分析し、些細なことでも情報共有することで、患者さんが落ち着いて過ごせる活動を見極めていきます。望ましい行動には大いに褒めるなどして、強度行動障害の症状が現れにくい時間を長くしていくのです。

患者さんに合った治療と支援が、患者さんを精神的安定へと導いています。



▲ビーズを順番に紐（ひも）に通す活動。視覚情報に強く反応する患者さんが多いため、作業の順番と終わりが目で見て分かりやすい作業が有効



▲療育訓練棟にはカラオケ室まである。大きな声で歌うことも楽しい活動の一つ（写真はスタッフによる再現で、曲目は中年の患者さんに人気があるYMCA）